

2024年3月期第2四半期

決算説明会資料

2023年11月28日

INDEX

1 | **2024年3月期第2四半期 決算概要**

2 | **2024年3月期 業績予想**

3 | **事業戦略の進捗**

4 | **APPENDIX**

1 | 2024年3月期第2四半期 決算概要

連結業績

売上高は、鉄構事業の減収により全体としても減収。

営業利益は、鉄構事業で前期計上した工事損失引当金の影響がなくなったこともあり増益。

単位：百万円	23年3月期2Q 実績	24年3月期2Q 実績	前期比	
			金額	比率
売上高	4,486	4,155	▲331	▲7.4%
営業利益	253	502	249	98.3%
営業利益率	5.7%	12.1%	—	6.4P
経常利益	369	660	290	78.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	236	483	247	104.8%
1株当たり 四半期純利益（円）	65.09	138.37	73.28	—

セグメント別業績

鉄構事業

売上高は、国内工事は堅調だったものの、海外工事は大型案件の減少により伸び悩み減収。セグメント利益は、一般管理費の増加もあり営業損失となるも大幅改善

単位：百万円	23年3月期 2Q実績	24年3月期 2Q実績	前期比	
			金額	比率
売上高	3,588	3,241	▲347	▲9.7%
セグメント利益	▲279	▲72	207	—
受注高	3,145	4,149	1,004	31.9%

不動産事業

安定した賃貸収入。営業費用の減少により増益

単位：百万円	23年3月期 2Q実績	24年3月期 2Q実績	前期比	
			金額	比率
売上高	897	913	15	1.8%
セグメント利益	532	575	42	7.9%

2 | 2024年3月期 業績予想

2024年3月期通期予想

売上高は、23年3月期並みながら、営業利益は、鉄構事業において前期計上した工事損失引当金の影響がなくなったこともあり増益となり、予想通りの着地を見込む。ROE、ROICも増益により上昇の見込み

単位：百万円	23年3月期 実績	23年3月期2Q 実績	24年3月期 予想	23年3月期実績／24年3月期予想	
				金額	比率
売上高	11,121	4,155	11,000	▲121	▲1.1%
営業利益	1,066	502	1,300	+234	+22.0%
営業利益率	9.6%	12.1%	11.8%	—	+2.2P
経常利益	1,107	660	1,300	+193	+17.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	717	483	900	+183	+25.5%
1株当たり 当期純利益（円）	198.04	138.37	248.30	+50.26	+25.4%
ROE	6.3%	—	8.0%	—	+1.7P
ROIC	4.7%	—	6.5%	—	+1.8P

セグメント別業績予想

鉄構事業

売上高は23年3月期並みながら、
営業利益は国内外の工事が順調に進捗することから黒字転換の見込み

単位：百万円	23年3月期 実績	23年3月期2Q 実績	24年3月期 予想	23年3月期実績／24年3月期予想	
				金額	比率
売上高	9,322	3,241	9,200	▲122	▲1.3%
セグメント利益	▲48	▲72	170	218	—

不動産事業

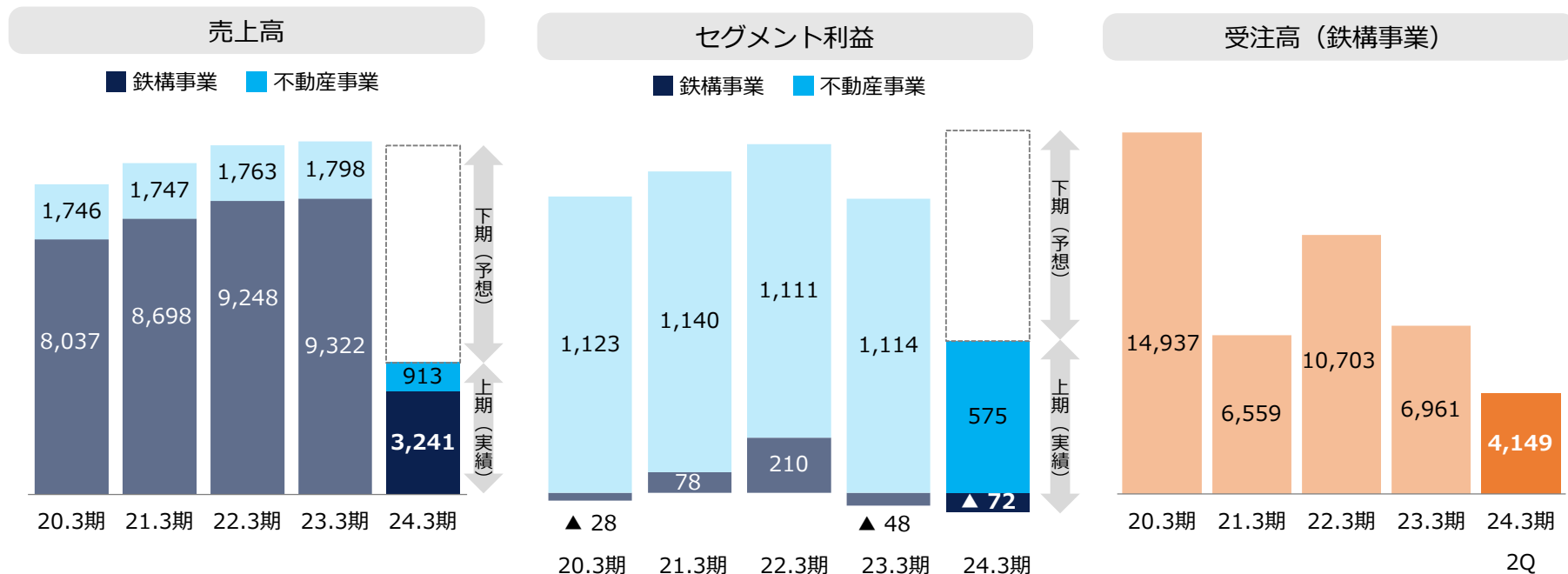
安定した賃貸収入により前期並みとなる見込み

単位：百万円	23年3月期 実績	23年3月期2Q 実績	24年3月期 予想	前期比	
				金額	比率
売上高	1,798	913	1,800	2	+0.1%
セグメント利益	1,114	575	1,130	16	+1.4%

セグメント別業績推移と今期予想

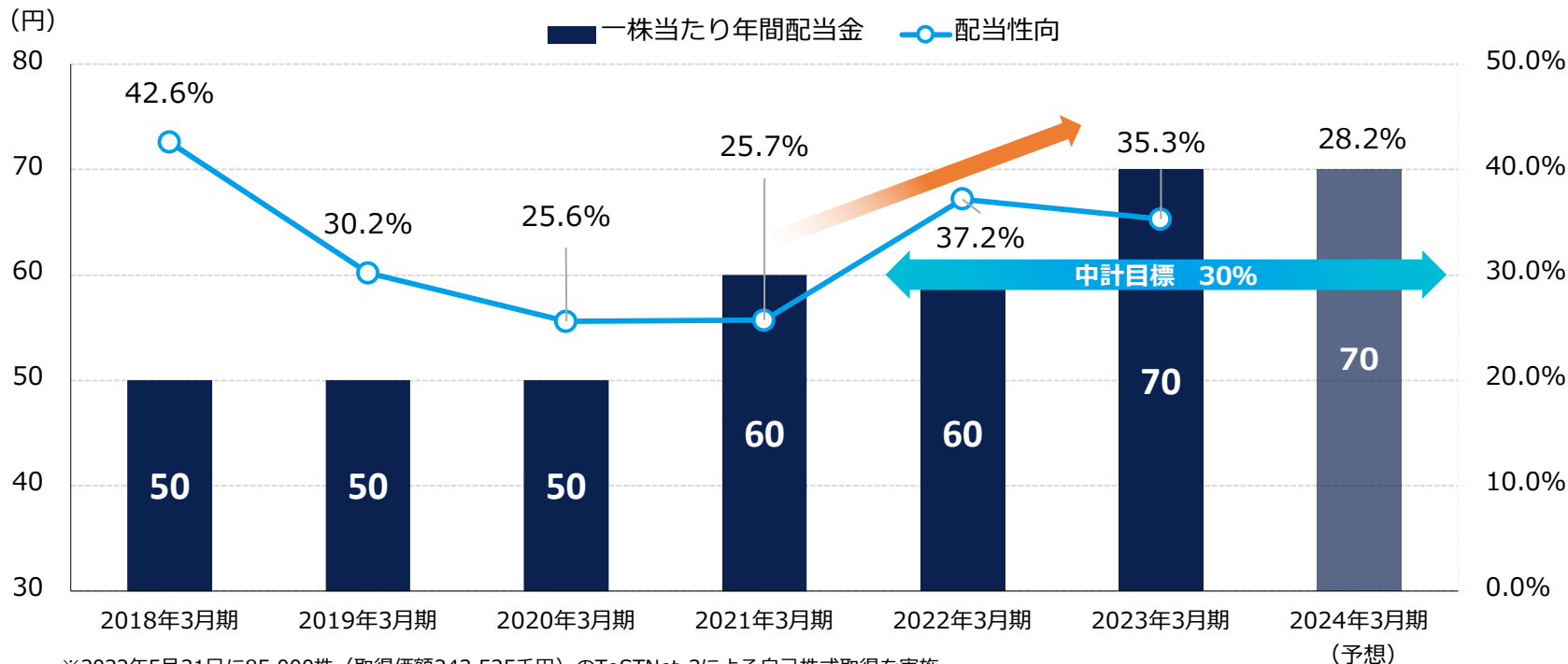
鉄構事業は、売上高が減少するもののセグメント利益は大幅改善の見込み。不動産事業は、安定した賃貸収入確保と、営業費用の減少により増収増益。期末に向けて、売上高・セグメント利益ともに進捗し、業績予想（売上高110億円、営業利益13億円）を確保できる見込み。受注高は、前期を上回るペースで進捗中

単位：百万円



株主還元

「安定的な配当等による株主還元を目指す」という基本方針の下、2022年3月期は1株当たり60円、2023年3月期は前期比10円増配の70円配当を実施（総還元性向は69.2%）。2024年3月期は70円配当を継続する予定



※2022年5月31日に85,000株（取得価額243,525千円）のToSTNet-3による自己株式取得を実施

※2023年5月31日に150,000株（取得価額総額441,300千円）のToSTNet-3による自己株式取得を実施

3 | 事業戦略の進捗

カーボンニュートラル市場への参画 - 当社の取り組みと実績

燃料アンモニア

市場動向

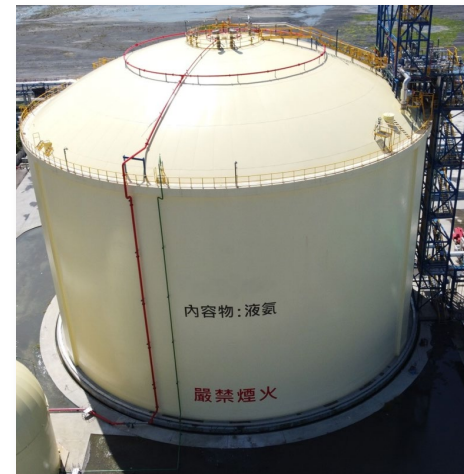
- 国は2030年までに、300万トン/年の導入を目指す
- 国内電力会社は導入推進を発表
- 大手石油・石油化学も自社発電設備への導入を検討
- 炭素税負担軽減のため、船舶用燃料等の導入を検討

当社の取り組み

- JFEエンジニアリングとの協業により共同営業等を実施
- 大型アンモニアタンク建設の技術開発を実施
- 国内に留まらず、海外のアンモニア市場へも進出

最近の実績

国内・海外最大級の低温アンモニアタンクを国内外石油化学会社から受注。2022年以降運用開始



台湾で建設した3万トン低温アンモニアタンク。低温アンモニアタンクでは東南アジア地域で最大規模

カーボンニュートラル市場への参画 - 当社の取り組みと実績

二酸化炭素 回収・貯留/+有効利用 (CCS/CCUS)

市場動向

- 国は2030年までに、1,300万トン/年の地下貯留を目指す
- 国は「先進的CCS事業地域」を7か所選定

当社の取り組み

- 国内CCS実証用球形タンク及び廃プラスチック由来の液化炭酸ガス球形タンクを受注し建設
- 大型球形タンク建設に伴う技術開発を推進

最近の実績

- 国内初のCCS実証用球形タンクを受注、現在建設中、2024年度以降運用開始
- 国内初の廃プラ由来の液化炭酸ガス球形タンクを受注。現在建設中、2024年度以降順次運用開始



現在、液化炭酸ガス球形タンクを計3基建設中

カーボンニュートラル市場への参画 - 当社の取り組みと実績

液化天然ガス (LNG)

市場動向

- 主に発電用燃料、都市ガスとして年間約7,200万トン
を輸入
- 民間企業において、石油・石炭からのカーボンニュートラル移行燃料として導入が増加

当社の取り組み

- LNGサテライト基地用低温タンクを受注し建設
- LNGサテライト基地用低温タンクの大型化に伴う技術開発を推進

最近の実績

国内最大級のLNGサテライト基地用低温タンクを都市ガス会社等から受注及び建設（4基）。2023年度以降順次運用開始



環境負荷が少ないLNGの導入に伴い、都市ガス会社等から低温タンク（縦置円筒型LNGタンク）を受注

APPENDIX

会社概要

会社名	株式会社石井鐵工所 (ISHII IRON WORKS CO., Ltd.)
本社所在地	東京都中央区月島3-26-11
設立年月日	創業：1900年3月（明治33年）／創立：1919年（大正8年）11月
代表者	石井 宏明（代表取締役社長）
資本金	1,892百万円（2023年9月30日現在）
事業内容	鉄構事業、不動産事業
従業員数	142名（連結ベース：2023年9月30日現在）
グループ会社	子会社2社、関連会社1社
決算期	3月31日
資格	<ul style="list-style-type: none">・ ISO9001認定登録企業・ 特定建設業 東京都知事許可(特-1)第122476号・ 一級建築士事務所 東京都知事登録第7001号・ 高圧ガス設備等の耐震構造計算プログラム認証事業所（A種及びB種）
上場証券取引所	東証スタンダード市場（証券コード：6362／貸借銘柄）

鉄構事業

タンク専業メーカーとして、石油精製事業者、都市ガス事業者、石油化学事業者、電力事業者向けの製品を中心に、設計から、製作、据付、試運転に至るまでの一貫したエンジニアリングを行っている

— 石油精製事業者向け



— 石油化学事業者向け



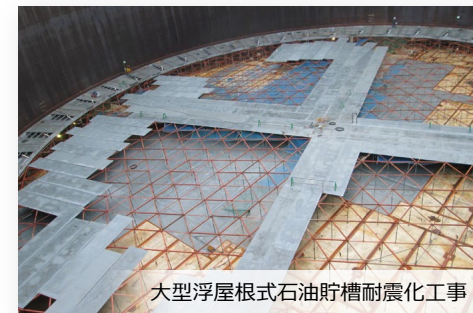
— 都市ガス事業者向け



— その他貯槽



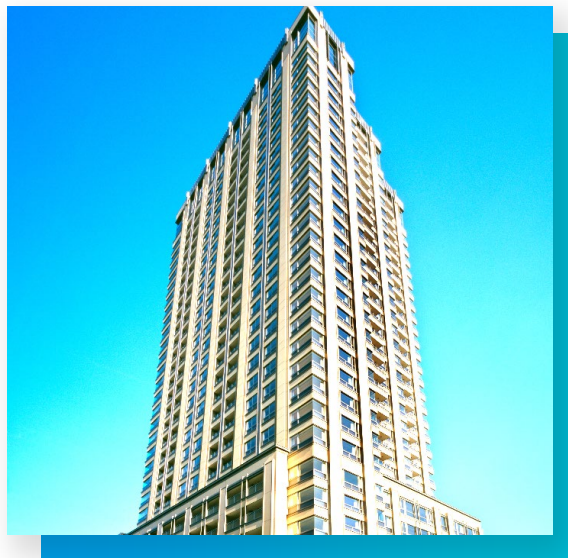
— 耐震強化・メンテナンス



不動産事業

社会のニーズの変遷に応える不動産開発と運用を行い、マンション・物流センター・商業施設など、社有地の立地条件を活かした付加価値の高い不動産を提供。近年は太陽光発電事業にも参入し、売電事業も手掛ける

— マンション



サンシティ銀座EAST

— 物流施設



DS・Lヘッドクォーター羽田

— 太陽光発電



東糀谷第4発電所

価値創造120年の歩み

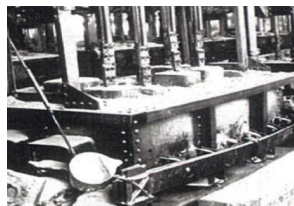
「技術報国」から「Technological Contributions for the World」へ

創業期～終戦

1900年に石井太吉が東京・月島に鉄工所を創業。ガスや石油などエネルギー産業に関連する技術開発に取り組み、様々な設備を提供



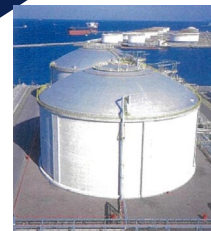
創業者 石井太吉



日本初のアルミナ電解槽を提供

オイルショック～創業100年

長年の研究開発を通じて、PSコンクリート製タンクなど新しい設備や工法の提供を実現。不動産賃貸事業を開始



PSコンクリート製低温タンク。1978年に(社)石油学会技術進歩賞など相次いで権威ある賞を受賞



国内最大級の都市ガスホルダーを1995年に竣工

1900～1945

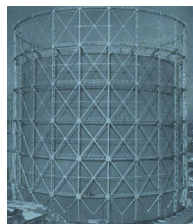
1945～1973

1973～2000

2000～現在

戦後～オイルショック

国内エネルギー産業の発展とともに、タンク・プラントメーカーとして確固たる地位を確立。海外にも積極進出し、「タンクの石井」を評される存在に。レジャー産業など新事業にも参入



東洋一（当時）の有水ガスホルダー

創業100年～現在

循環型社会や高齢化社会を見据えた新しい設備や不動産の開発を推進



シンガポールで2015年に竣工した低温タンクターミナル



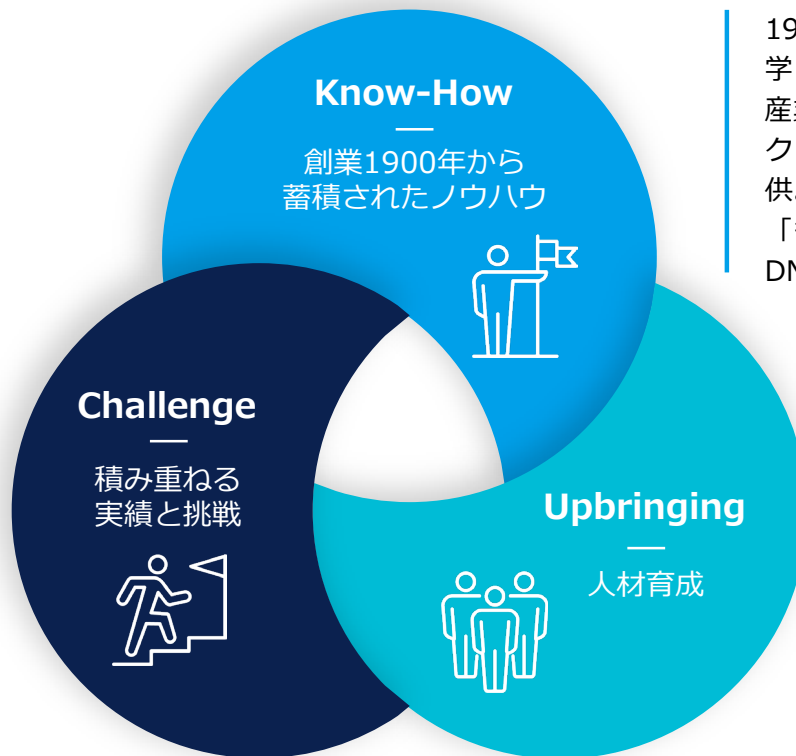
2020年、宮城・気仙沼に国内初の耐津波構造タンク5基を竣工



2022年に国内最大の低温アンモニアタンクを竣工

石井のDNA

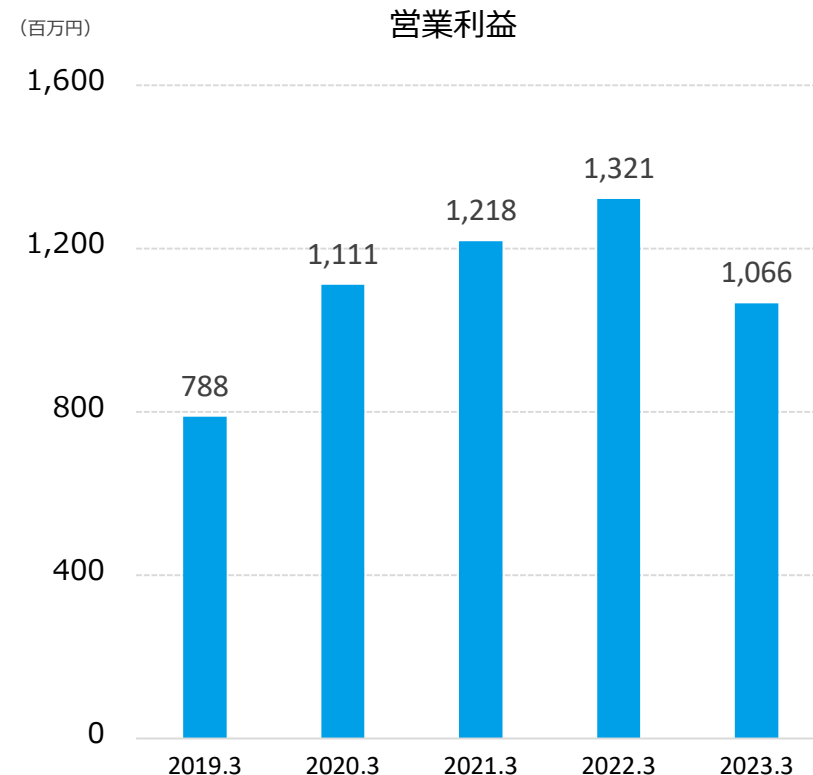
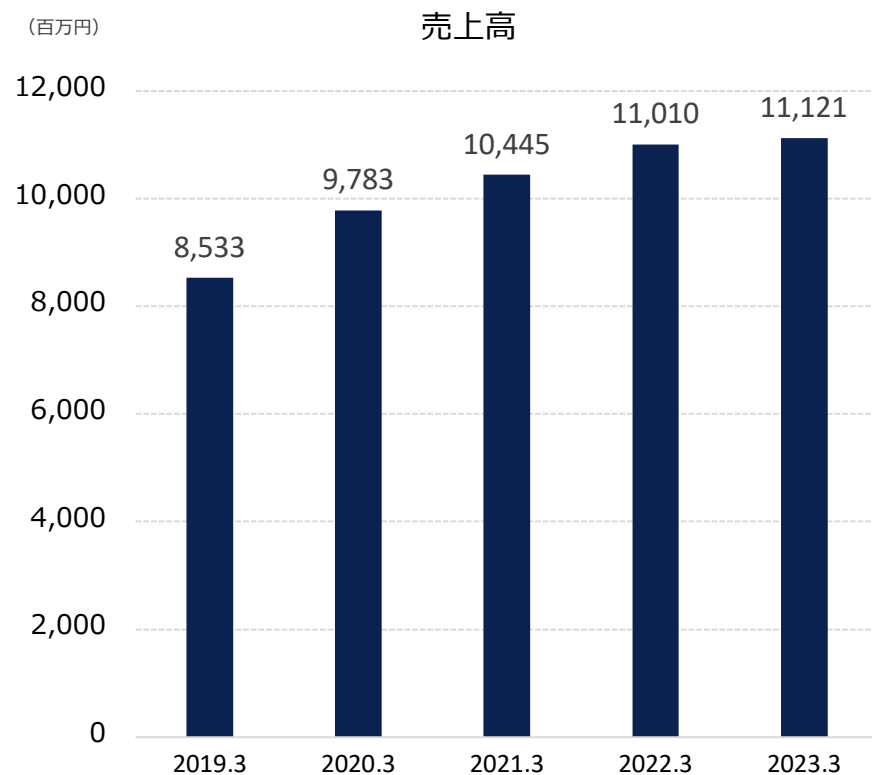
計画・設計・調達・建設のEPC業務や試運転・メンテナンス業務に至るまで、限られたコストと時間的制約の中で、要求される法規や基準を遵守しながらお客様にご満足いただける品質のタンク・プラントを提供。



1900年の創業以来、石油・化学・鉄鋼・電力・ガスなど基幹産業のお客様に不可欠なタンク・プラント設備を世界中に提供。一世紀を超える歴史の中で「ものづくり」企業としてのDNAをノウハウとして継承。

①問題解決力の向上 ②コミュニケーション力の向上 ③経験と資格に裏付けされた感性の向上、の3点にフォーカスした人材育成に注力しグローバル人材を育成。

業績推移



ディスクレームー

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係わる現時点における仮定を前提としております。従いまして、実際の業績は今後さまざまな要因の変化によって今回の見通しと異なる結果となる可能性があります。